

タイトル：第11回 オスマン文書セミナー

日時：2019年1月12日（土）14：00－18：00／2019年1月13日（日）13：00－18：00

場所：AA 研大会議室（303）

坂田 舜（九州大学大学院人文科学府歴史空間論専攻 博士後期課程）

第11回オスマン文書セミナーで2019年が始まった。時は1月12日と13日、場所は府中、東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所である。

受講者は事前に講師作成の配布資料と講読テキストを郵送で手にしたが、今年はそれに加え、インターネットを利用して資料をダウンロードできるという便宜も図られた。

今回のセミナーでは、オスマン朝の財政に関する18世紀の文書がテキストとして選定された。全ての文書に、スィヤーカト書体とよばれる財政文書専用の特殊なアラビア文字の書体で書かれたテキストが含まれている。初日12日の午後より、受講者の簡単な自己紹介とスィヤーカト書体を解読するためのコツが説明された後、7点の文書の輪読が粛々と進められた。

1日目は7点あるうちの3点、すなわち1. オスマン艦隊の乗組員のために購入された食糧の価格についての文書、2. エジプトから送られた米の売却と売り上げを造幣局に納めたことについての文書、3. エジプト州の使者サーリフ・カーシフとその部下たちに対する、イスタンブル滞在中の家賃負担等の接遇についての文書を輪読した。

2日目もまた昼過ぎから開始された。輪読された資料は以下の通りである。すなわち、4. モレア半島でアルバニア人反乱が起こった際に鎮圧軍の糧秣を負担したムカーター収入の状況に関する文書、5. エジプトの元巡礼隊長がイスタンブルに亡命後、国庫から受け取る月ごとの手当てに関する嘆願書、6. 速射砲兵隊隊長ムスタファ・ナーシフの給与についての文書、7. 大宰相府付近にセリム一世によって建てられたテルズィレル・キャルハーネシ・モスクのイマーム任命についての文書である。そして最後に討議と総括が行われ、セミナーは終了した。

今回のセミナーは、主催のアジア・アフリカ言語文化研究所の高松洋一氏を講師に進められた。私は昨年に引き続き参加させていただくこととなったが、今年も昨年と同様に多数の受講者があり、1日目が20名、2日目が15名であった。長年にわたり参加されている受講者の方々による積極的な発言が印象に残ったが、オスマン史を専門とする研究者だけではなく、イラン史やアラブ史を専門とする受講者の参加もあった。狭い分野に閉じこもらずに新たな史資料に向かう積極的な姿勢を見て、大変刺激を受けた。加えて大学院生という私と同じ立場の受講者が文書を読解する様を目の当たりにして、私ももっと頑張らねばならぬ

と良い意味での焦りと危機感を持った。

最後にこのような貴重な機会を用意してくださった関係者の皆様には、深く感謝を申し上げます。